

豪雨対策に本腰 調整板で簡易堰 田んぼダム整備

小山市

日本農業新聞

2017年9月12日

豪雨対策に本腰 調整板で簡易堰

2015年9月の関東・東北豪雨の浸水被害に遭った栃木県小山市で10月中旬から、洪水被害の軽減に効果のある「田んぼダム」の整備が始まる。同市の思川西部土地改良区が取り組み、「田んぼダム」は県内で初めて（同改良区）。同改良区は22年までに、区の南側約11003畧に設置に必要な調整板を、3000基設置する方針だ。

田んぼダムは、田んぼが持つ貯水機能を生かして、排水溝に水量を調整する板を設置。大雨の際、一時的に水をため、ゆっくり排水することで洪水被害を軽減する。

栃木県小山市思川西部土地改良区

雨対策を求める声が上がった。

15年11月、環境カウンセラーの中荻元一さんから「田んぼダム」を紹介された同改良区は、関連団体の思川西部農村環境保全会を通じて、導入準備を進めた。

会は、先進地の新潟市や新潟県見附市を視察。宇都宮大学の協力を得て、昨年1年間、改良区内で試験的に調整板を設置した。その結果、田んぼダムの貯水量は最大34万リットルに上った。これは50リットル

田んぼダム整備

貯水機能を活用

高まっている（農村振興部）と分析する。

ル（長さ50リ、幅11リ、深さ1リ）の約600杯分に相当する。特に区の南側に設置することで、効果を発揮することが分かった。

調整板で水量を調整する簡単な堰（せき）は、1基当たり1万8000円かかり、3000基設置するには約5000万円が必要だ。会は、国の多面的機能支払交付金を活用することで極力、農家に負担をかけない方針だ。同改良



田んぼダムの調整板を確認する松本理事長

1193ヘクタールに3000基設置